

NICU・GCUにおける病棟保育士の実態 — 数と業務内容の実態把握を目指して —

石井 悠

(東京大学大学院教育学研究科・日本学術振興会特別研究員)

yujishii@gmail.com



背景・問題

- * 近年、様々な要因により、低体重出生児や所謂ハイリスク児が増加してきていることに伴い、生後すぐ新生児集中治療室（以下、NICU）などで保育されたり、その後も新生児回復治療室（以下、GCU）で引き続き保育される子どもが増えてきている
- * そのような背景の中、新生児の発達支援などの必要性が叫ばれている (e.g., Valerie, Patricia, Katrina, & Terry, 2011)が、特に日本においては、小児一般病棟における病棟保育士の導入の広がりにより、NICUなどにも病棟保育士を配置する病院があることが報告され始め、一定の注目を集めている。

医療保育：

医療を要する子どもとその家族を対象として、子どもを医療の主体として捉え、専門的な保育支援を通して、本人と家族のQOLの向上を目指すことを目的とする

(日本医療保育学会HP)



この中でも、
こども病院や、病院の小児科・小児病棟の中で、
入院している子どもを対象とした保育

= 病棟保育

1954年 小児病棟に保育士（当時は「保母」を導入開始）

患児の「遊び」を大切にする目的

1994年 123施設で病棟保育士を導入（帆足, 1995）

2002年 小児入院医療管理料に保育士加算

“保育士1名以上を配置したプレイルームを備える場合に保険点数加算”

2005年 300施設あまり(=小児科を標榜する全国の医療施設の約10%)
に病棟保育士が配置

2007年 「医療保育専門士」資格認定制度

全国で病棟保育士の数は増加

目的

質問紙調査により全国のNICUやGCUにおける保育士導入の実態を明らかにするとともに、どのような活動が行われているのかを面接調査によって明らかにすることを目的とした。

調査方法

◆ 面接調査

- * 調査方法：1対1の半構造化面接
- * 対象：・病院（特定機能病院含む）に勤務し、
・自ら業務内容を決め、
・病児保育士としての働きを求められている病棟保育士15名

◆ 質問紙調査

- * 調査方法：2016年11月～12月で、全国の小児科・小児外科を標榜する病院2686施設に質問紙を配布し、子どもの入院数が最も多い病棟の保育士の上司に回答を求めた。
- * 有効回答数は178だったが、保育士の配置が児童福祉法にて義務化されている医療型障害児入所施設・病棟のみの場合など、34病院分を分析から除外し、144病院分の回答を分析対象とした。

結果・考察

◆ 全国のNICU・GCUにおける保育士導入の実態

回答者と回答者の勤務病院の属性 (N=144)		
配置病棟	病院の機能別区分	
小児のみの一般病棟	83	特定機能病院 49
成人と混合の一般病棟	27	地域医療支援病院 43
その他（外来など）	4	上記以外 42
病棟の配属ではない	10	わからない 3
複数回答	20	無回答 7
職種	病院の種類	
医師	21	総合病院 66
看護師	108	大学病院 25
その他	14	小児専門病院 12
欠損値	1	その他 18
性別	無回答 23	
男性	18	診療科目（複数回答）
女性	123	小児科 128
欠損値	3	小児外科 61

全国の小児科・小児外科を標榜する病院における新生児・子どもが入院する病棟と、病棟保育士の配置・訪問の現状 (N=144)								
新生児・子どもが入院する 主な病棟としてあてはまるもの	小児のみの 一般病棟	成人と混合 の一般病棟	成人のみの 一般病棟	ICU/PICU	NICU	GCU	その他	なし
配属されている病棟	108	34	2	4	17	17	7	-
定期的に訪問している病棟	69	23	1	6	14	14	5	38
不定期で訪問している病棟	31	19	3	17	23	20	6	60

Note1: 配置される病棟・定期的に訪問している病棟・不定期で訪問している病棟は、それぞれ複数回答

Note2: 「その他」には、産婦人科病棟などが含まれる

Note3: ICU/PICUは集中治療室・小児集中治療室を、NICUは新生児集中治療室を、GCUはNICUから引き続きケアするために設置している新生児病室、いわゆる新生児回復病床

◆ 一般病棟とNICU・GCUで保育活動を行う保育士が感じる、NICU・GCUでの役割

- 【親子の関係性（アタッチメント）の促成】 【母親の不安・罪悪感の低減】
- 【発達支援】 【一般病棟との架け橋】



「小さく生んで、申し訳なかったな」
「自分の子と思えない」



母子の間に「不思議な距離感」が生じる。
中には、面会が遠のく母親も。



親子関係が築け、家で「かわいい」と思いながら育てられるよう、
子どものよさや、できるところと一緒に見つかる

保育の対象となる年齢・子どもの特徴としてあてはまるもの

未熟児・新生児	75	52%	重症児	92	65%
0歳	133	93%	隔離児（伝染性疾病患等）	95	67%
1-3歳	140	98%	無菌室（クリーンルーム）の子	64	45%
4-6歳	140	98%	ターミナルの子	74	52%
小学生	132	92%	家族が付き添っている子	110	78%
中学生	102	71%	入院中の子どものきょうだい	69	49%
高校生以上	39	27%	あてはまるものはない	8	6%

Note 1: 保育対象となる年齢の割合は有効回答143に対して算出。

Note 2: 保育対象となる子どもの特徴の割合は、有効回答141に対して算出。

今回の質問紙調査の回答者の中で、一つまたは複数の小児のみの一般病棟があると回答している109病院のうち、108の病院では一つ以上の小児のみの一般病棟に保育士を配置させていた。一方で、NICU・GCUに関しては、NICUがある68病院のうち17病院、GCUがある55病院のうち17病院でのみ、保育士を配置していた。